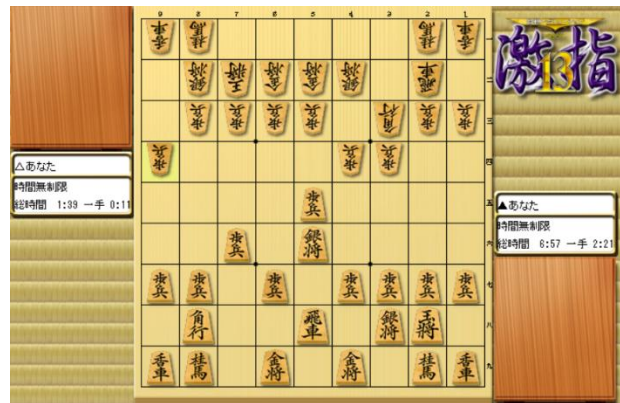


中飛車対策 相振り 2025.12.27

基本図 94 歩まで

▲56 歩 △34 歩 ▲58 飛 △33 角
▲55 歩 △22 飛 ▲76 歩 △44 歩
▲68 銀 △62 玉 ▲57 銀 △42 銀
▲56 銀 △52 金左 ▲48 玉 △72 玉
▲38 玉 △62 金上 ▲28 玉 △82 銀
▲38 銀 △94 歩



先手中飛車に対する後手相振り(向かい飛車)での対策となります。

向かい飛車のメリットとして、相手玉を攻めやすい、角交換に強いこと、金無双のメリットとして、打ち込みが少ない、美濃より寄せにくいことから、個人的に向かい飛車+金無双を好んで指しています。

2手目 34 歩

まずは角道を開けます。

4手目 33 角

中飛車には 33 角と向かい飛車の準備をします

6手目 22 飛

55 歩と繼に 54 歩と突いてきそうですが気にせず 22 飛と回ります。54 歩からの飛車先の歩交換してきた場合は 52 飛とぶつけます。これは後で説明します。

8手目 44 歩

相手が角道を開けたら向かい飛車側は角道を止めます。これを忘れると角交換されて指しづらくなります。

10手目 62 玉

まずは 5 筋から玉を遠ざけます。ここでも 54 歩からの飛車先の歩交換は 52 飛とぶつけます。

12手目 42 銀

中飛車の左銀が中央にきそうなのでこちらを左銀で対応します。対中飛車の時の左銀は、向かい飛車の理想形が組めるまでは 42 銀が定位置で 53 の地点を厚くしておきます。43 銀と上がりがちですが、そうすると相手の銀と交換になってしまうので、理想形組むまでは銀交換されないようにします。

18手目 62 金上

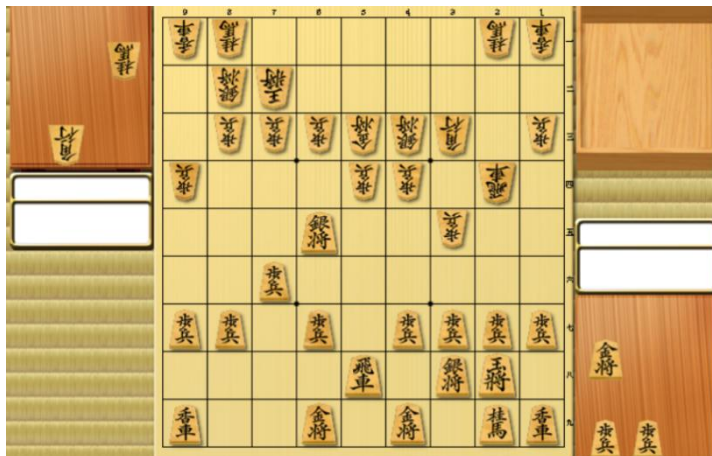
これで向かい飛車側の 53 の地点が金銀3枚になり、相当守備力が上がりました。この形を組めばそうそう簡単に破れません。

22手目 94 歩

これで向かい飛車+金無双が完成です。途中で 24 歩~25 歩と早めに伸ばしておく手もありますが変に戦いが始まってしまうと自玉の整備に時間が掛かってしまうので、まずは金無双の完成をおススメします。8 筋や端攻めがまだないので、本当はこの形では 82 銀と上がらなくてもいいのですが、基本的な形ということでこの形にしています。この基本図から向かい飛車側は理想形を目指していきますが、無理やり 5 筋を攻めてきた場合どうするか説明します。

基本図△94 歩から

▲65 銀 △24 歩 ▲77 角 △25 歩
 ▲86 角 △26 歩 ▲同歩 △同飛
 ▲27 歩 △24 飛 ▲77 桂 △35 歩
 ▲54 歩 △同歩 ▲同銀 △53 歩
 ▲同銀成 △同銀 ▲同角成 △同金上
 ▲65 桂 △54 歩 ▲53 桂成 △同金
 ▲65 銀 △43 銀



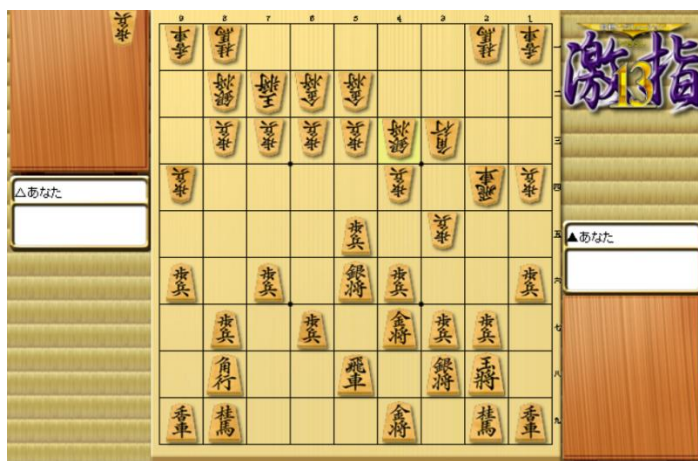
5筋の強襲はこのように成立しません。それも 42 銀で中飛車の攻めを受けているためです。

相振り飛車は非常に難しく、実は自分から動かないで相手が無理に動いてきた所を咎める方が勝ちやすいです。

次に向かい飛車の理想形を紹介します。

基本図△94 歩から

▲96 歩 △24 歩 ▲16 歩 △14 歩
 ▲59 金左 △25 歩 ▲48 金左 △26 歩
 ▲同歩 △同飛 ▲27 歩 △24 飛
 ▲46 歩 △35 歩 ▲47 金 △43 銀

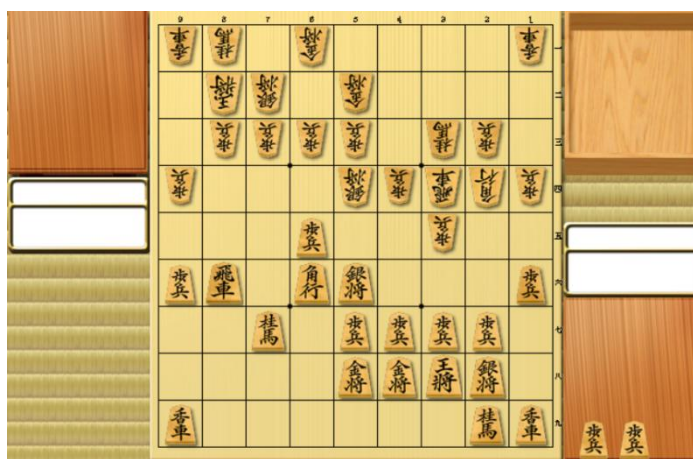


中飛車に対して向かい飛車で相振り飛車にした場合の理想形になります。

ここまで組めたら 43 銀です。65 銀から 5 筋を攻めてきても 45 歩、同歩、34 銀と 2・4 筋の攻めを見せながら 54 歩には 88 角成を見せておいて向かい飛車が指しやすいです。

ちなみに対中飛車だと 56 銀型が作れませんが、相振り飛車で向かい飛車の理想形はこのような形になります。

級位者の棋譜を見ると 88 飛や左銀が 76 銀～85 銀と逆棒銀のような形で攻めているのをよく見かけます。しかし実際は 86 飛+66 角+56 銀という陣形がバランスが良いので相振り飛車の時はまずこの形を目指します。

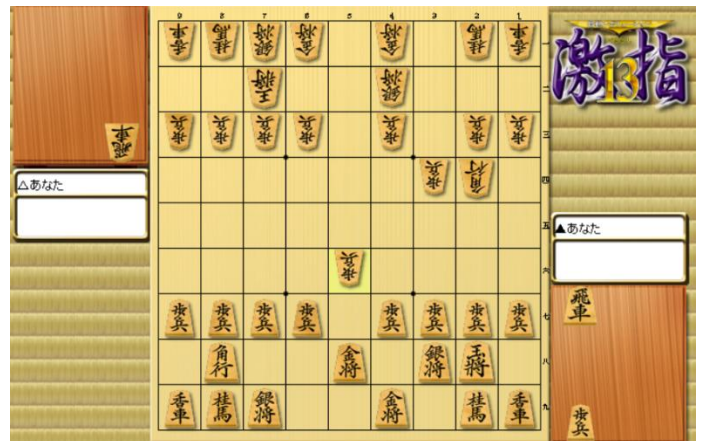


<早めに 54 歩と突いてきた場合>

▲56 歩	△34 歩	▲58 飛	△33 角
▲55 歩	△22 飛	▲54 歩	△同歩
▲同飛	△52 飛	▲同飛成	△同玉
▲48 玉	△62 玉	▲58 金左	△42 銀
▲38 玉	△72 玉	▲28 玉	△24 角
▲38 銀	△56 歩		

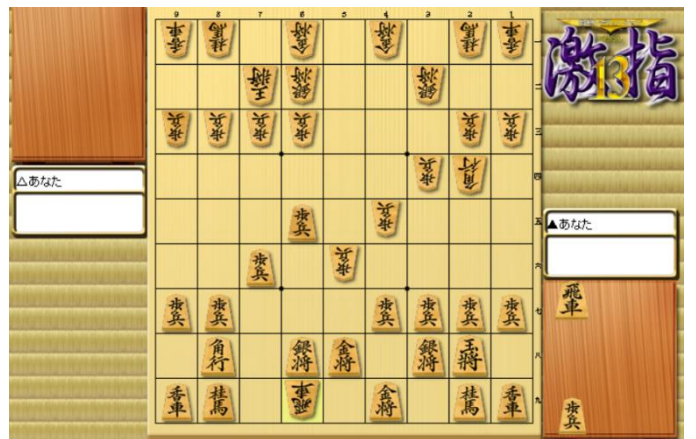


7 手目で 54 歩と突いてきた時は強く
飛車をぶつけます。56 歩、55 歩と中飛車は
2 手掛けたのに対して後手は 0 手で歩交換と
飛車交換できるため手得となります。
また、後手だけ角道を開けているのも大きく、
後手の方が駒組みがしやすいです。



<76 歩、44 歩を入れた場合>

▲56 歩	△34 歩	▲58 飛	△33 角
▲55 歩	△22 飛	▲76 歩	△44 歩
▲54 歩	△同歩	▲同飛	△52 飛
▲同飛成	△同玉	▲48 玉	△62 玉
▲58 金左	△32 銀	▲38 玉	△72 玉
▲28 玉	△62 銀	▲38 銀	△45 歩
▲66 歩	△24 角	▲65 歩	△56 歩
▲68 銀	△69 飛		



7 手目で 76 歩、34 歩を入れてから 54 歩と突いてきた場合でも飛車をぶつけて 24 角から 5 筋を
狙っていくと、先手の方が飛・角の打ち込みが多いので後手の方が手得もした上に駒組みもしやすくなり
ます。

相振りは膨大な変化がありますが、立花は全て向かい飛車+金無双で不便がないので、自分の指しやす
い飛車の位置と囲いを、見つけてそれを指し続けるのがオススメです。

対中飛車の向かい飛車による対策の 1 例でした。